

コンテキストを中心とする ゴール整合方法の提案

南山大学 数理情報学部 情報通信学科

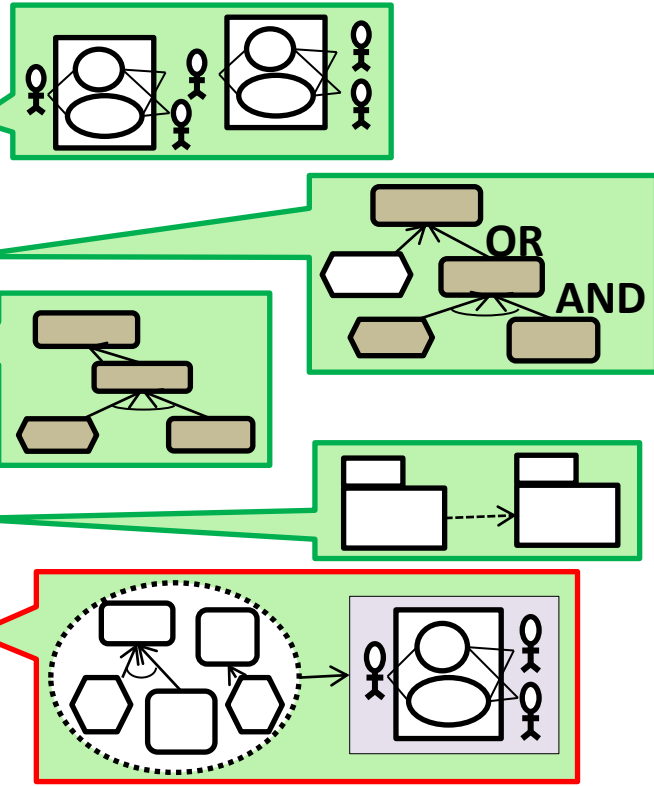
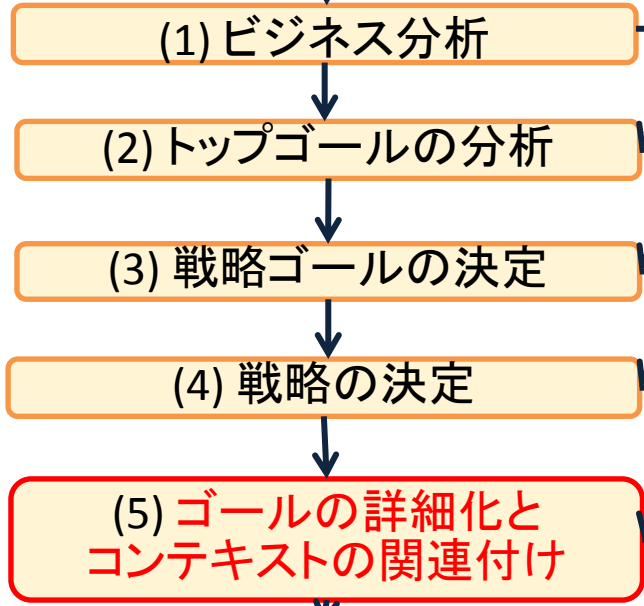
2008MI252 津川 夏海

2008MI261 和田 百世

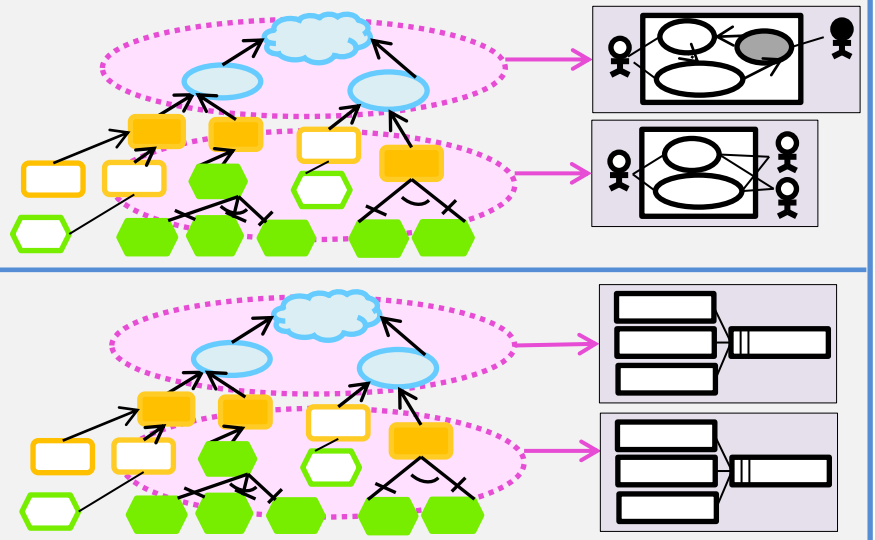
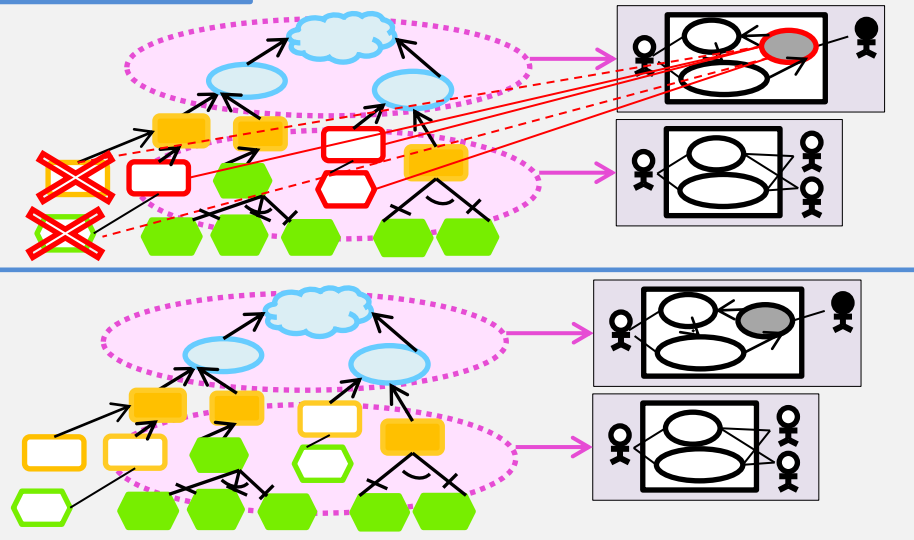
指導教員 青山 幹雄

シナリオ 成果物

プロセス



評価方法

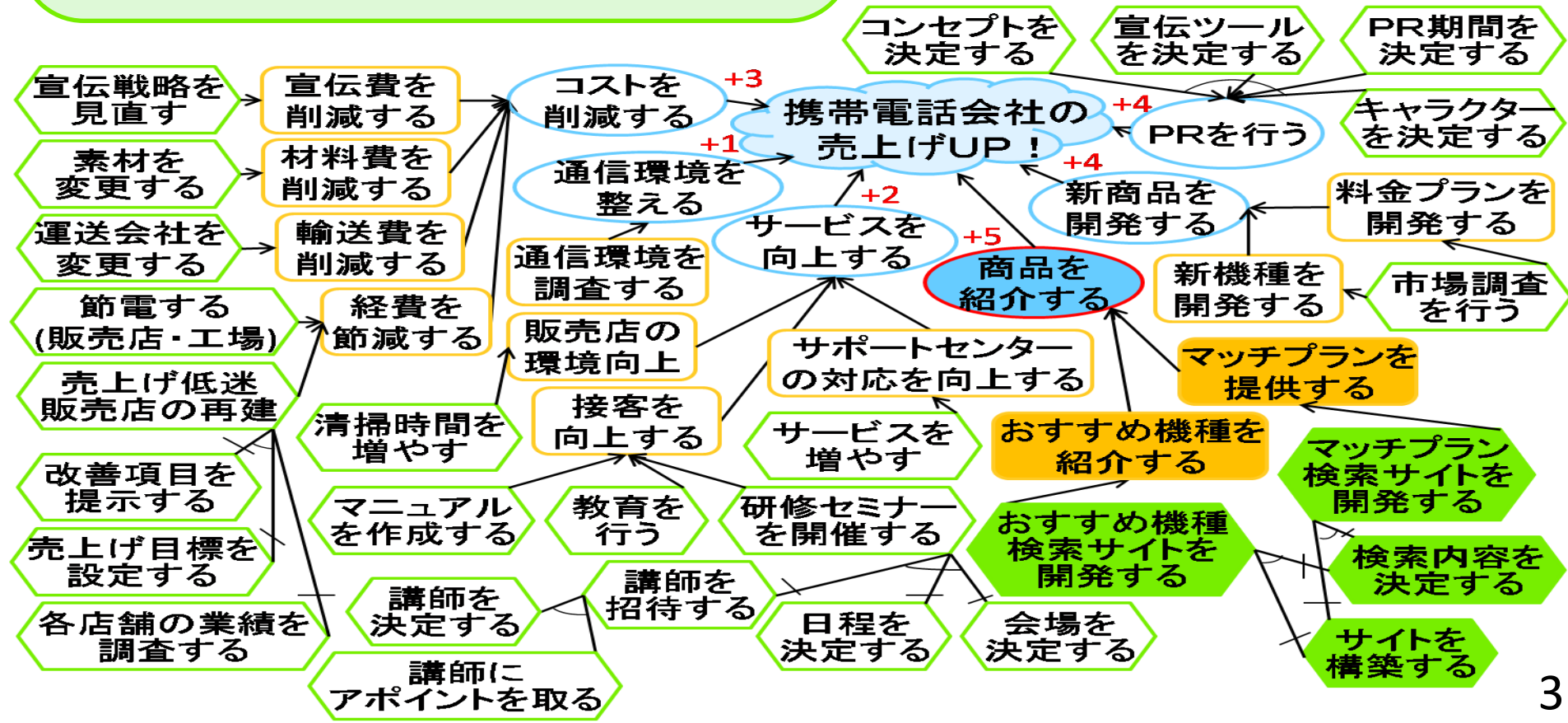
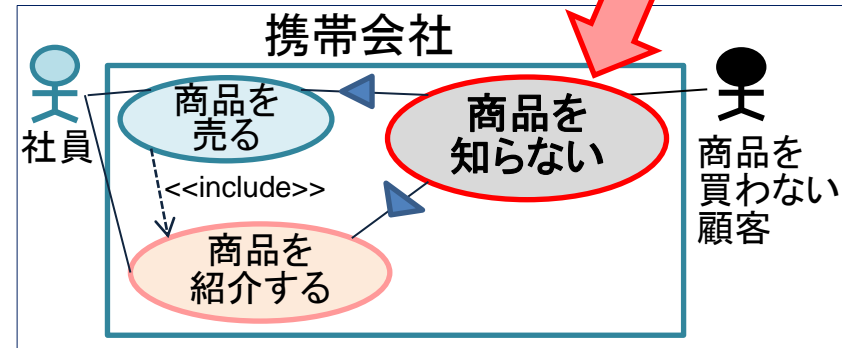


質問に対する回答

ミスユースケース

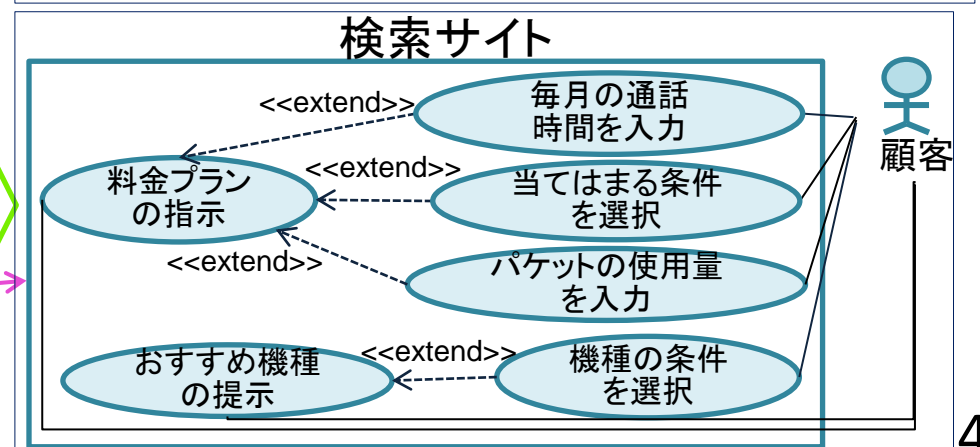
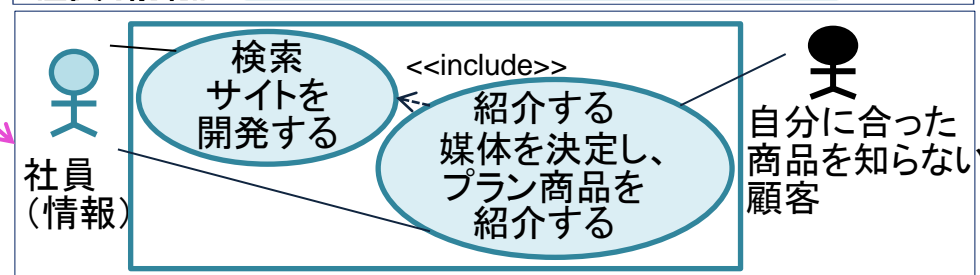
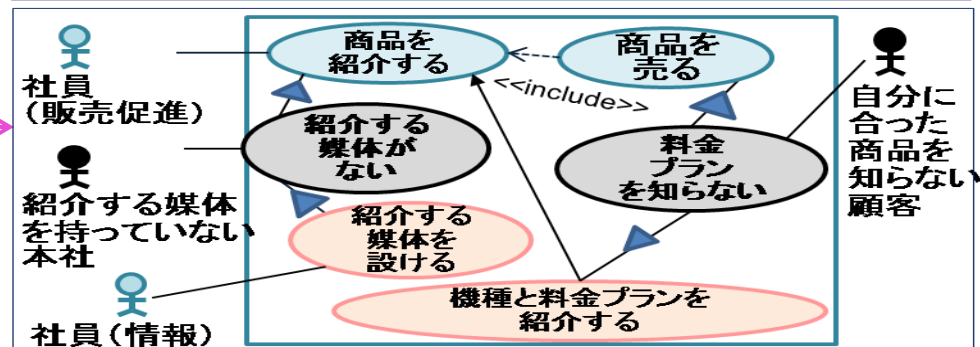
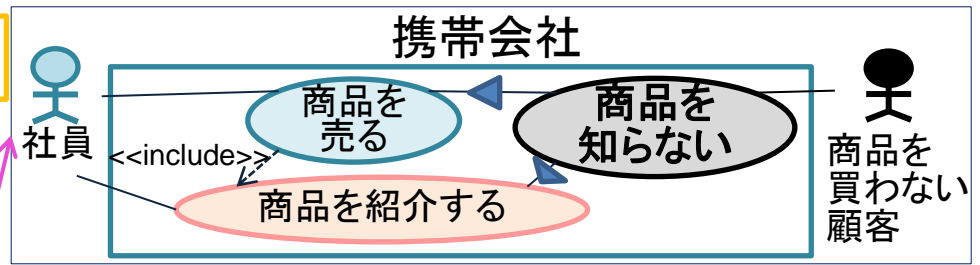
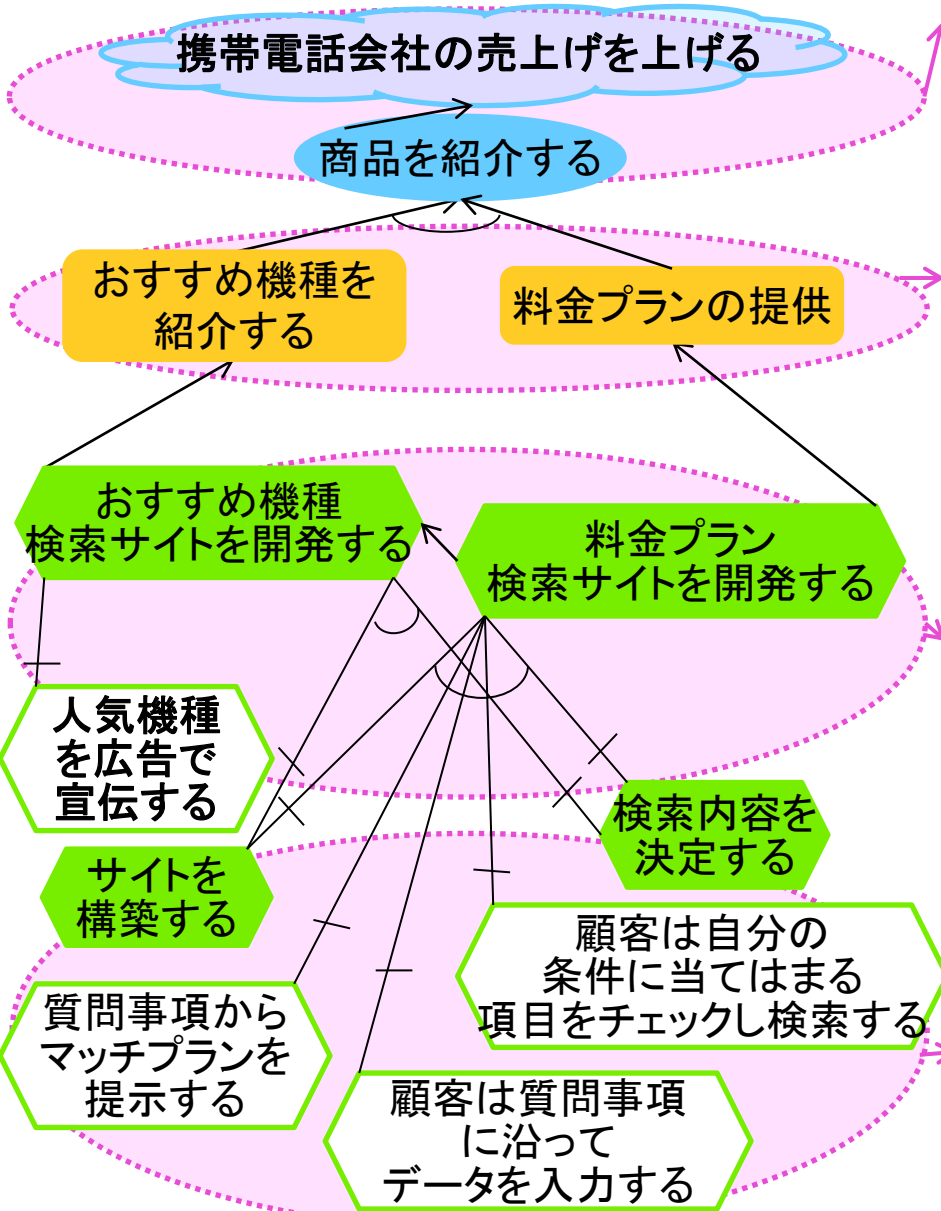
Q ミスユースケースはなぜ一つに絞る必要があるか？

A 一つとは限らない
選択された戦略ゴールによって決定



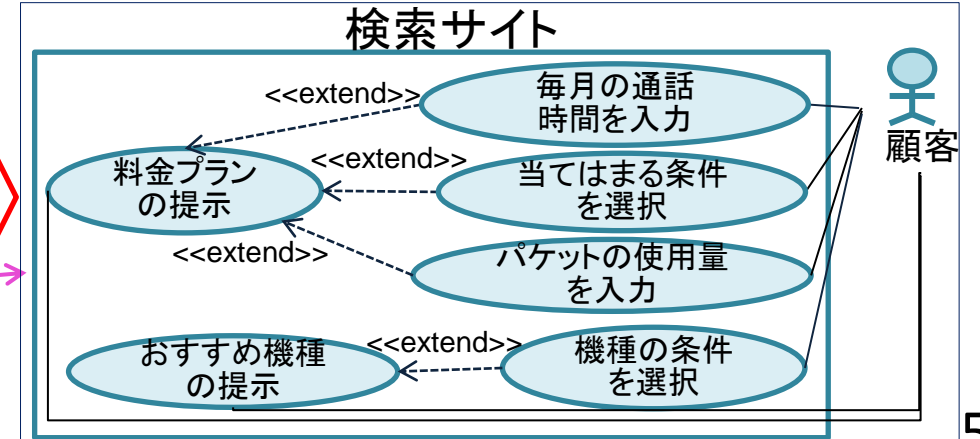
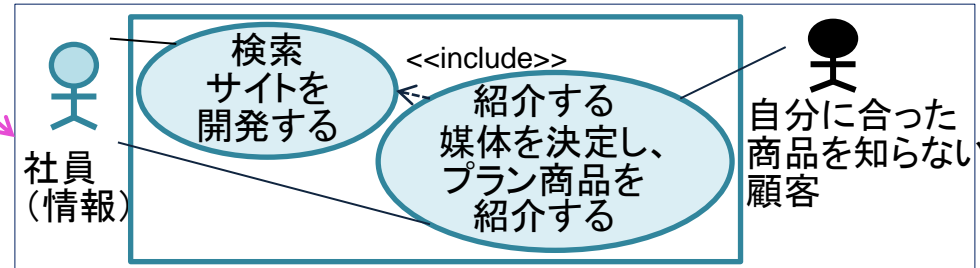
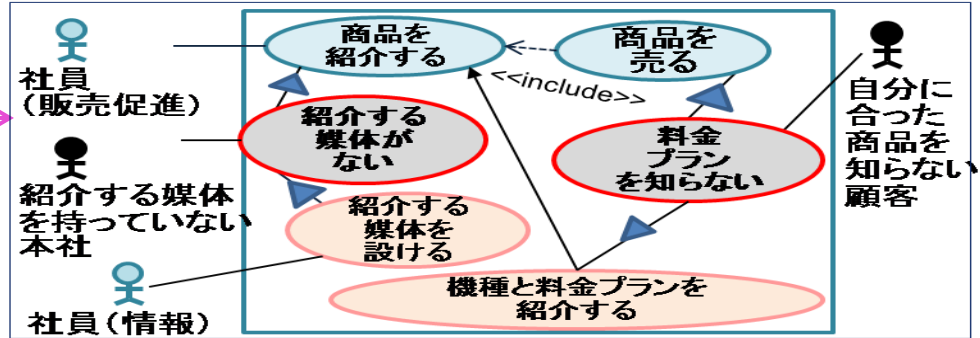
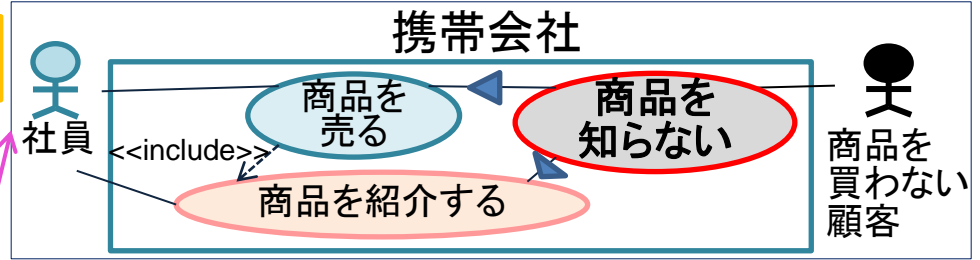
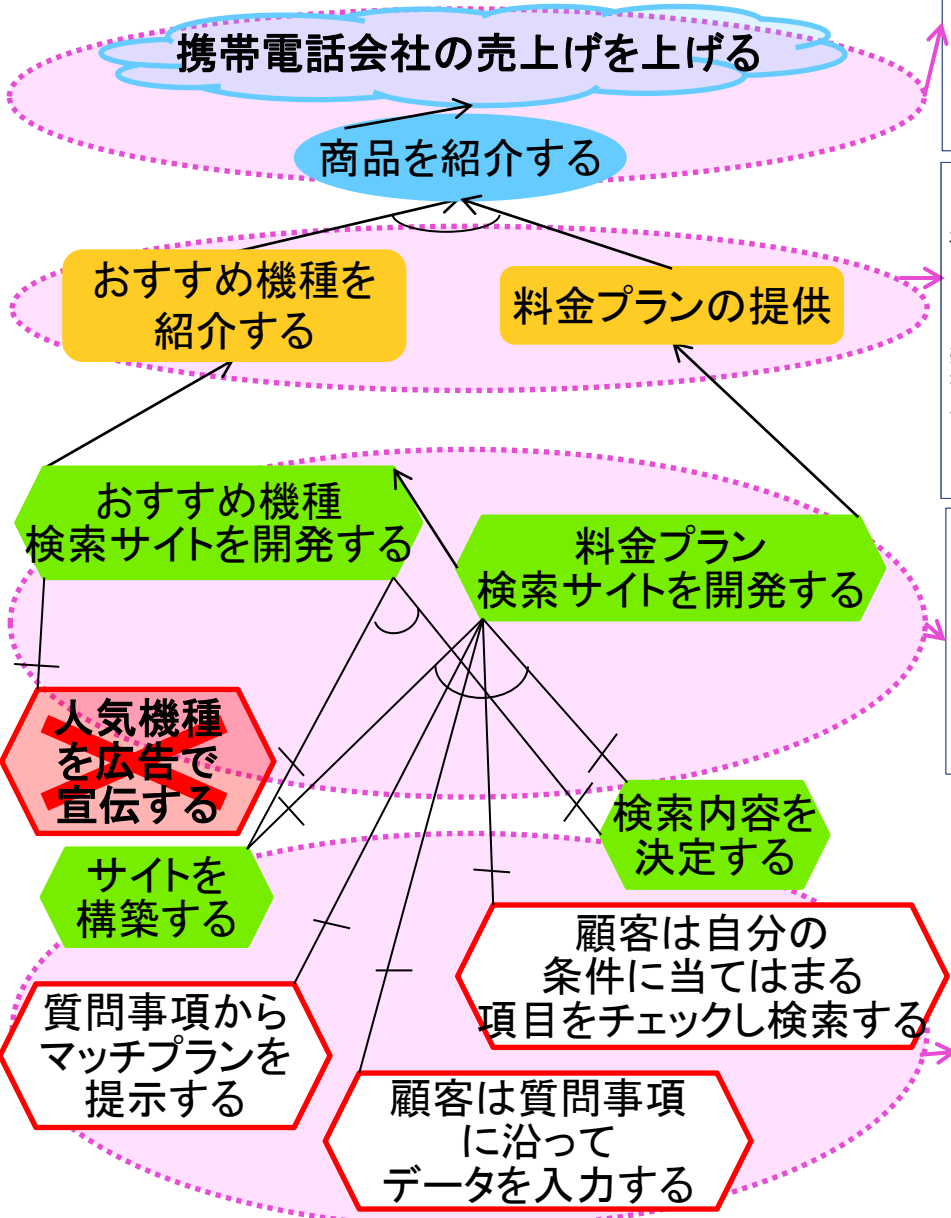
評価1：(5)戦略ゴールの詳細化とコンテキストとの関連付け

- なし: 戦略とは異なるゴールまで抽出



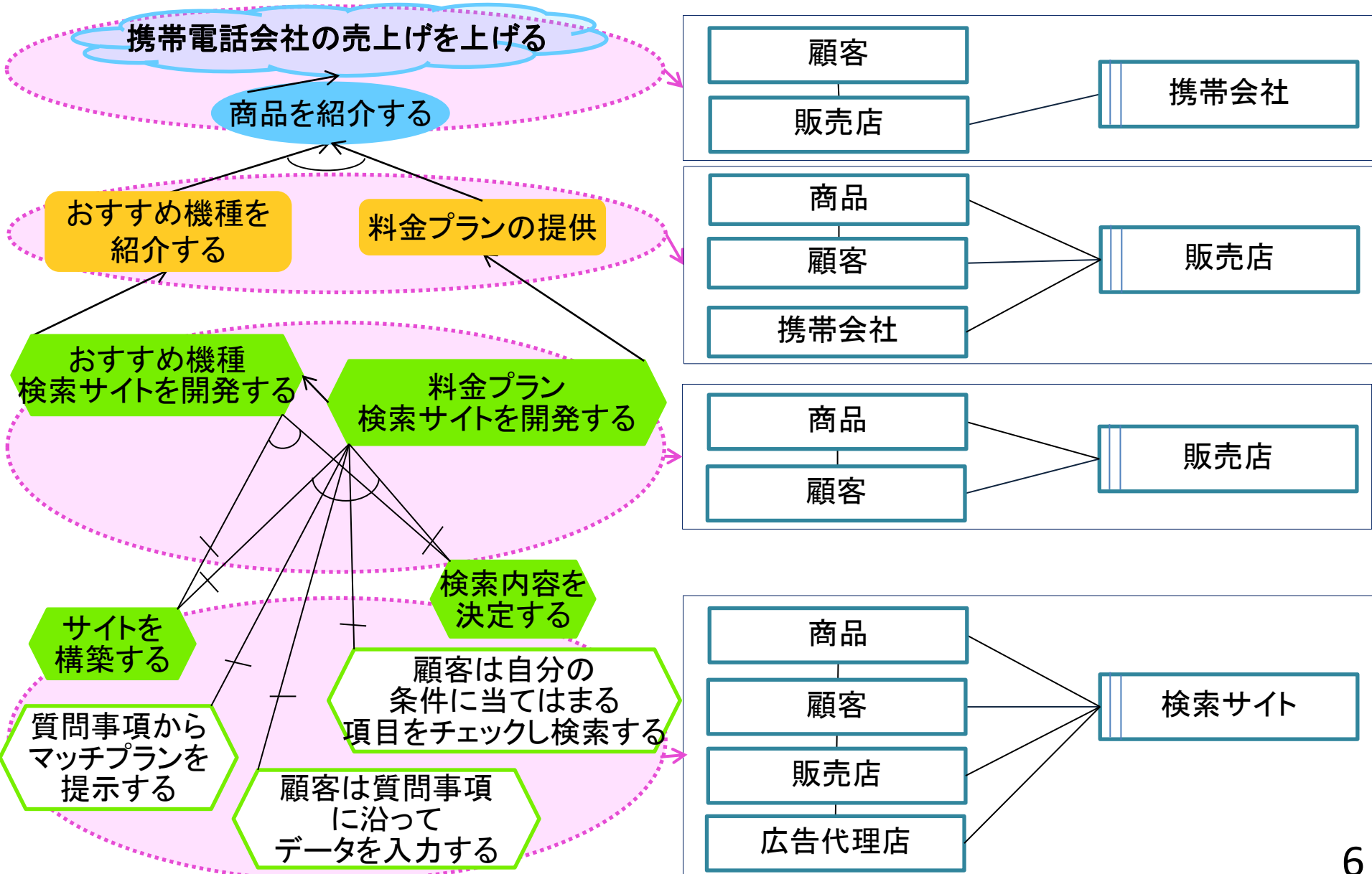
評価1：(5)戦略ゴールの詳細化とコンテキストとの関連付け

- あり：戦略に沿ったゴールのみ抽出



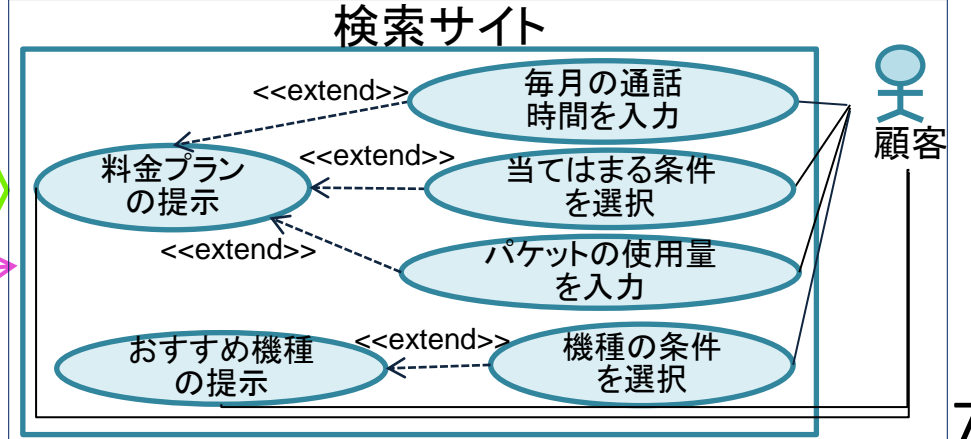
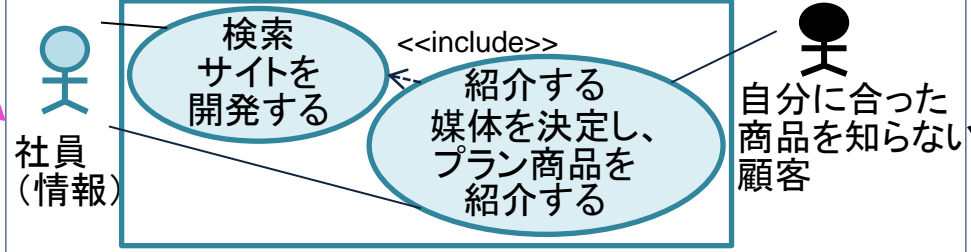
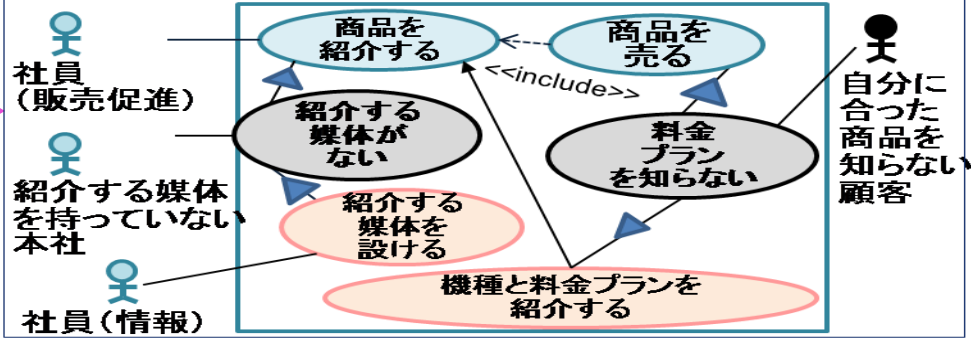
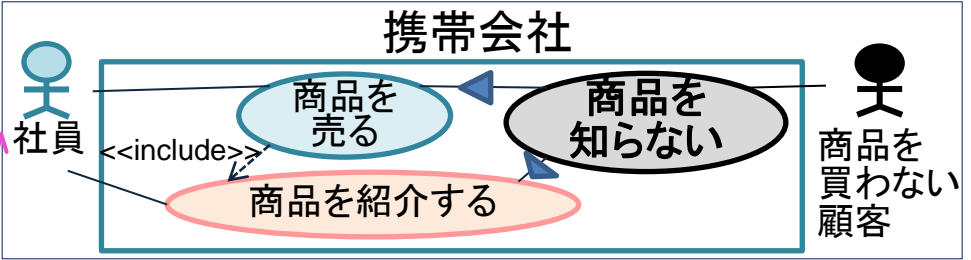
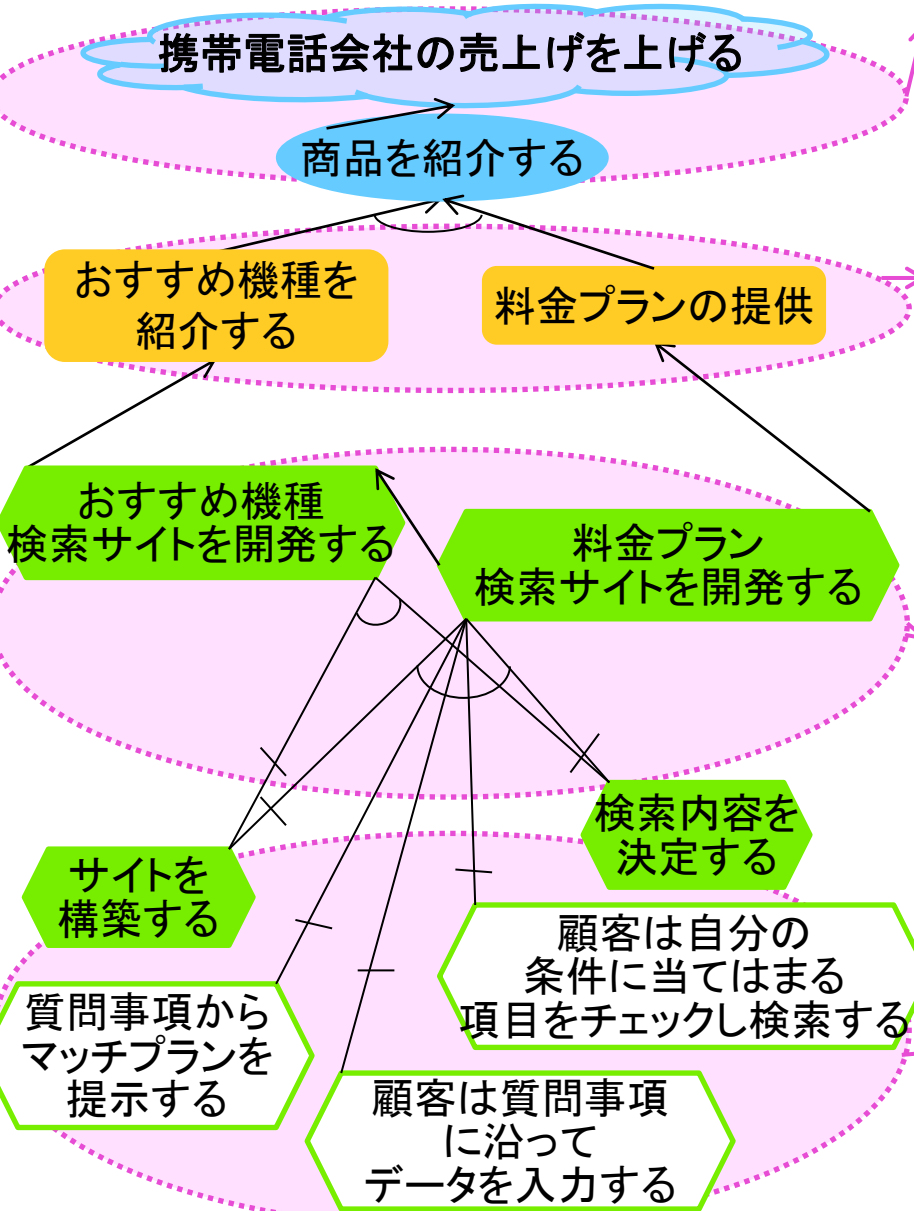
評価2：(5)戦略ゴールの詳細化とコンテキストとの関連付け

- B-SCP：要素のみ記述可能



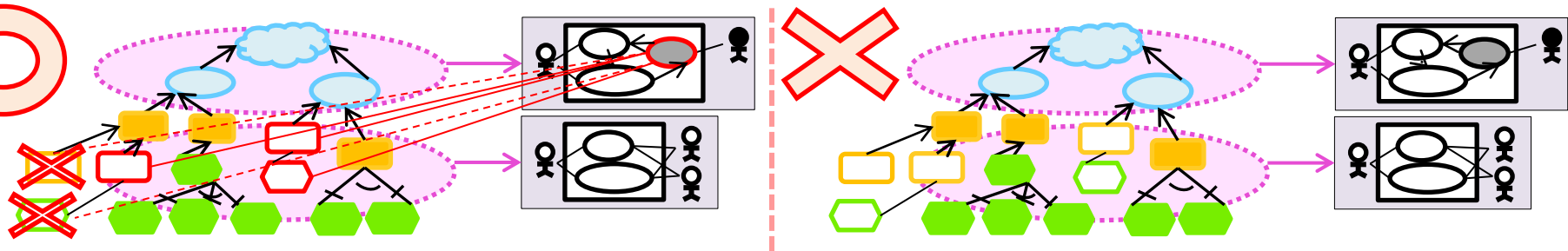
評価2：(5)戦略ゴールの詳細化とコンテキストとの関連付け

● ユースケース図：機能要求も記述可能



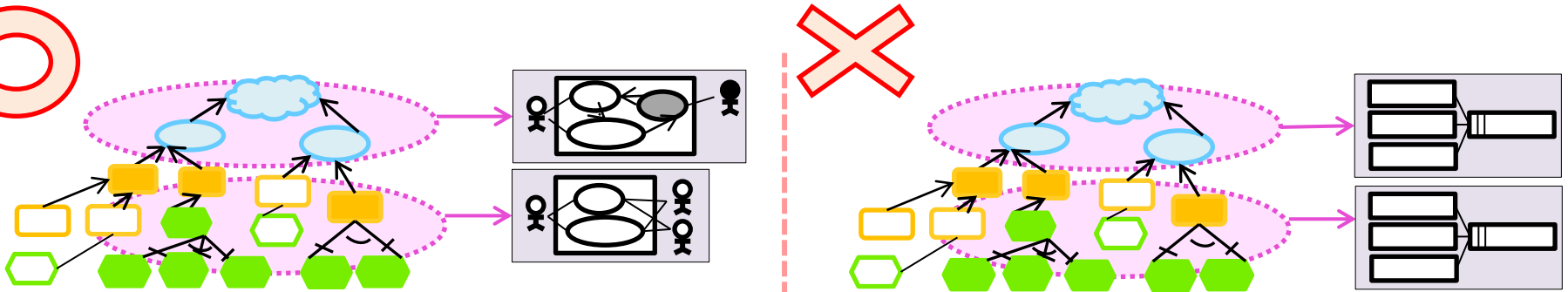
まとめ

評価方法 1



- ミスゴールを回避するゴールであるかを確認することによって決定された**戦略に沿ったゴールのみ抽出できる**

評価方法 2



- B-SCPでは要素のみ記述可能だがユースケース図は要素のみならず、**機能要求も記述可能**
- ミスユースケース図によって、システムの必要性を表記可能

今後の課題

- 本稿を進める

コンテキストを中心とする ゴール整合方法の提案

—END—

南山大学 数理情報学部 情報通信学科

2008MI252 津川 夏海

2008MI261 和田 百世

指導教員 青山 幹雄